

令和5年度 第10回浄水地域会議 会議録

■日時 令和6年1月10日（水） 午後7時～午後8時30分

■場所 浄水交流館 1階 大会議室

■出席者

<委員>	上田 信也	久世 正敏	郡家 泰広
	佐竹 修	土田 洋	土井 英二
	成瀬 博文	野畑 安浩（会長）	三輪 晃久（副会長）
<欠席>	種元 涼湖	堂元 雅昭	
<市長>	太田 稔彦		
<関係職員>	中川 さゆり（地域振興部 自治推進室長）	都築 和夫（企画政策部 副部長）	
	野依 真人（企画課 課長）	大光 圭二（都市計画課 副課長）	
<事務局>	岡本 裕之（地域支援課 課長）	松下 誠（地域支援課 副課長）	
	山本 祐揮（地域支援課 担当長）	伴 悠平（地域支援課 主査）	

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 諮問・答申
 - （1）答申書の授受
 - （2）答申内容に関する説明
 - （3）質疑応答及び意見交換
- 5 連絡事項
 - （1）浄水北小学校避難所運営マニュアルについて（報告）
 - （2）令和6年度地域課題解決事業について（報告）

■議事（要約）

- 4 諮問・答申
 - （2）答申内容に関する説明
野畑会長から答申書の内容について説明を行った。
 - （3）質疑応答及び意見交換
別紙のとおり
- 5 連絡事項
野畑会長から資料に基づいて説明を行った。

■今後の予定

第11回浄水地域会議は中止

第10回地域会議 質疑応答及び意見交換 議事録

委員	<p>防犯に関する内容になるが、現在、浄水地域には交番がなく、保見交番の受け持ちとなっている。浄水地域に、交番を設置するという要望等はあるか。人口も増え、治安の拠点として交番を作るべきだと考えている。市として県に設置要望を出しているか。市外で地域のパトロール拠点を先に整備し、その後、交番とした例があるというようなことを聞いたことがある。現状を教えてほしい。</p>
市長	<p>交番の設置については、地域要望として伺っている。市内の他の中学校区でも交番がない地域があり、全体でまとめて継続的に愛知県にも設置要望している。パトロール拠点をそのまま交番にした例は、手法について、別途勉強してみたい。防犯については、地域として防犯力を高めていくことも重要だと考える。最近では特殊詐欺の件数も増加傾向だが、特殊詐欺については、交番設置によって防げるものではなく、日常の中で特殊詐欺の話題を出すなど、地域社会が良い意味で干渉しあうことで防げる場合もあるのではないかと考える。3年半のコロナ禍の中で、自治区活動の縮小が続いたため、「自治区とは何か、どのようなものか」という声が増えている。自治区がなくなるということはないと思うが、子ども会や高齢者クラブの加入者は豊田市全体で減少傾向にあり、それによって地域の防犯力や防災力も弱まっていると感じる。コロナ禍による自粛ムードが明け、イベント等も復活しているものの、高齢者の参加が少ないという声を耳にするが、浄水地域ではどうか。</p>
委員	<p>浄水町自治区では、敬老祝賀会が4年ぶりに開催されたが、参加者は減っておらず、楽しみにしている方が多かった。</p>
委員	<p>高齢者が多い伊保原自治区においても浄水町自治区と同様で、今年は新年会が開催されたが、多くの方の参加があり、地域内での交流も盛んである。</p>
市長	<p>それは大変喜ばしいことである。会長の答申内容の説明の中で浄水地域が率先してチャレンジしていくと記載があったが、浄水地域ではPTAをPTCAにするなど、画期的な取組も行われている。また、地域のこどもたちとも接したが、積極的なこどもたちが多く、良い部分がたくさんある。答申内容の意見にもあった、「変えてはいけないもの、守り続けるものも必要」という考え方も重要で、良い部分は変えなくていいと思う。</p>
委員	<p>答申の最後にこどもについての意見があるが、引き続き、こどもへのサポートが必要だと考えている。部活動の地域移行については、指導者を確保することも重要だが、財政的な支援も必要だと考えている。豊田市のファミリーサポートセンター事業があるが、こどもの習い事の送迎等の育児の</p>

市長	<p>援助を受けたい人に対する支援者の数が足りないのが現状である。認知度や認識も低いと感じるが、地域としても市としても力を入れていくべきと思っている。このような子どもたちに対する事業に対する支援についてどう考えているか？</p> <p>ファミリーサポートセンター事業については、需要と供給のバランスがとりにくい、この仕組みはもっと必要になっていくと思う。部活動の地域移行については、現在、いくつかの地域で、実証実験のようなものが進められており、それを評価して進めていくことになる。地域移行の制度ができた上で、責任を持って行っていただく場合は有償であるべきだと考えている。中学校の部活動を地域が担う、指導者を確保するというだけではなと思っています。昔は、子どもは「家庭でしつけ、学校で学び、地域で育つ」と言われていた。現在は学び以外のことも学校が担っており、学校が立ち行かなくなっているのが現状である。ただし、浄水地域においては地域学校共働本部があり、浄水交流館では至るところで子どもが勉強していろいろな人が出入りしている。学校が終わってから学校にいて、いろいろな雰囲気の中で勉強したり、遊んだりしている。地域移行の狙いを広く考えてみると、もうこの地域は出来上がっているんじゃないかと思う。学校が終わった後の時間の過ごし方で、「地域の中でいろいろな過ごし仕方があって、いろいろな人と関わってその環境の中で育っていく」ということを目指すと学校から部活動を切り離れた大きな価値が生まれてくると思う。浄水地域のように色々な人たちが、新旧の住民同士も互いに関わればとてもいい経験になる。</p>
委員	<p>浄水地域が豊田の縮図であるという市長の話を受け、浄水地域は浄水駅を中心とした住みやすい地域であり、今の住みよさを守っていかなければならないと思った。梅坪駅、上豊田駅、浄水駅という駅が続く流れの中でどういう魅力ある地域にしていくか。30年間、駅があったという環境は変わっていないが、どのように行政としてリードしていくのか伺いたい。</p>
市長	<p>浄水地域は真っ白なキャンバスにいろいろな絵を描いている途上というイメージがある。例えば浄水駅の広い公共空間の使い方は、いろいろな可能性を秘めている。各種行事が定着している地域は伝統があり、変えられないこともあるが、浄水はいろいろな形を描くことができる。3つの駅の特徴を生かして、お互いの駅の住民をひきつけあって、中学校区にとらわれない楽しみ方ができるとよいと思う。豊田市は伝統的に中学校区で考える傾向にある。わくわく事業についても、現在中学校区単位での制度になっているが、中学校区に捉われない考え方もあると思う。</p>
委員	<p>豊田市は山村地域もあり、高齢者が多いがそのような地域にデジタル化は相容れるのか。浄水町自治区では弔事連絡を紙で印刷して、各世帯や区民</p>

市長	<p>会館に配布している。昔から住んでる方々は仲間意識があり、このやり方がなじんでいる。現代だとアナログすぎるのでデジタル化したいとは思っているが、電子データで送っても見てもらえないのが現状である。組長の負担も考えて切り替えたいが、なかなか進まない。どのように進めればよいか悩んでいる。市ではデジタル化に向けて様々な取組をされていると思うが、自治区に展開できるものがあれば教えてほしい。</p> <p>すぐに全てをデジタル化するのは無理である。市役所もデジタル化を進めているが、窓口を全てデジタルにすると言われてれば、それはできない。行政内部はデジタル化を進めて事務の効率化を図っていくが、窓口でのアナログによる対応は必要である。「行かない・書かない・待たない市役所」を目指すといっているが、支所では、窓口に行って話をするのが楽しみという市民がいることも承知している。特に、一人暮らしの高齢者にとっては窓口に行くことが心の拠り所になっている部分もあり、こういった交流も大事なことと考えている。地域住民が会話をしながら回覧板を手渡しすることにも価値があると思う。デジタル化は、効率化のほか、脳トレにも有効で、利点が多々ある。デジタル化する部分を丁寧に見極め、自分たちのできる範囲で取り込んでもらえばよいと思う。自治区の役員の仕事については、負担が大変大きいので役員間の仕事は、デジタル化も取り入れて、速やかに効率的にできるとよいと思っている。引き続き、よろしくお願いしたい。</p>
----	--